

たまねぎ

【特徴】

種の発芽適温は20℃前後。土はあまり選ばないが、酸性土壌では生育が抑制されるので酸度矯正が必要である。また、根張りは浅いため有機質に富むほ場で良品が生産できる。

【作型と品種】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な品種
作型									○	○			
露地							□						もみじ

【作り方】

1. 育苗

種まき

種は本ぼ1aあたり40ml程度準備する。苗床は本ぼ1aあたり条まきで5㎡、ばらまきで3.5㎡程度必要である。

苗は肥やけをおこしやすいので、施肥量に注意し10日以上前に施用する。幅120cm、高さ10～20cmのうねを立てる。種まきの前に水をやっておき、条間8cm、深さ6～8cmの溝に条まきするか、ばらまきにする。種まき後バーク堆肥で種が見えなくなる程度に被覆する。敷きわらかコモを被覆し、その上から十分水やりをする。

水やり

水やりは発芽までは十分おこない発芽を揃える。発芽後本葉2.5葉までは水を控える。本葉3枚から水やりを十分に行う。

土入れ

発芽して種の皮が取れたら、バーク堆肥がかくれる程度に篩を使って細かい土をうすくかける。

間引き

苗が5～10cmに伸びたところに1～2cm間隔に間引く。

2. ほ場の準備

定植の1か月前に土づくり肥料を入れて耕しておく。7～10日前に基肥を施用し、幅135cmのうねを立てる。

3. 定植

定植苗

苗床にレーキを挿し苗を浮かせて、根を切らないように苗とりをする。良い苗のみ定植し、大苗や不良苗は定植しない。株間10cmの4条植えて栽植本数1aあたり2,400～2,900本である。植える深さは2～3cmとし、葉の分岐点より上に土をかけないようにする。根が地上に出ないように定植し、水をやって活着を早める。

4. 定植後の管理

12月下旬以降に、3回程度条間に追肥を行う。最後の追肥（止肥）が遅れると、チッソが遅効きして球の肥大が遅れ、貯蔵性も悪くなるので3月中旬までには終えておく。追肥をする時に、除草をかねて中耕する。止肥のときは条間の中耕はせず、溝の土で土寄せをする。

【病害虫の防除】

気温が上昇する3月中旬から5月に白色疫病、灰色かび病、べと病などの病害が発生する。また、ハモグリバエ、スリップスなどの食痕から病原菌が侵入し貯蔵病害が発生する。

【収穫】

莖葉が70～80%倒伏し、晴天をみはからって抜き取る。抜き取った株の莖を10cm程度残して切断し、吊り玉貯蔵をする。